

巻頭言



人間看護学部 学部長

伊 丹 君 和

本誌第18号は、令和になって初めて発刊される「人間看護学研究」である。

新たな元号である「令和」は、万葉集にある「しよしゆん れいげつ きよ やわら うめ きやうぜん初春の令月にして気淑く和ぎ梅は鏡前こ ひら らん はいご こう かおらの粉を抜き蘭は珮後の香を薫す」との文言から引用したものであるという。この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている。文化は、人間の知的洗練や精神的進歩とその成果であり、「令和」に込められた意味のように、私たちが取り組んでいる研究の成果としての「人間看護学研究」も、新たな文化を生み出していくことであろう。

また令和2年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される年である。オリンピックは古代オリンピックの精神を受け継ぎ、フランスの教育者クーベルタンによって1896年ギリシャの首都アテネの地で復活した。単なるスポーツの祭典ではなく、スポーツを通じて人間の精神的発達と世界の人々の平和な生活を願う「オリンピック精神」は、今もなお脈々と受け継がれている。今年第32回目のオリンピックであり、東京では第18回に続いて2回目の開催となる。1964年の東京オリンピックではピクトグラムが考案され、その後世界中に普及していった。果たして、今年の東京オリンピック・パラリンピックではクーベルタンが復活させた「オリンピック精神」は世界中の人々にどのように表現されるのか、今からとても楽しみである。

看護はすべての人々を対象としている。全世界の人々が平和で幸福な生活を送ることを目指す看護は、「オリンピック精神」にも通じているといえる。看護におけるさまざまな課題を解決するための看護学研究的蓄積として、また「令和」に込められた人間の知的洗練の成果や精神的進歩としての「人間看護学研究」がこれから益々発展することを心より期待している。